



「せごもの」の話  
茶わんや生

(一)

朝から晩までチン／＼カン

ハニワが陶器の始まりで、仲

の通り正真正銘、ワレも

三韓から土器の製法が渡来し

てをります。即ち神功皇后の

のが私の商賈で、これは私

代に始つたわけではなく、祖父

から傳つて、三代目、私の本

家は十何代續いた美濃のせと

もの間屋です。

そんなわけで近頃の暇にま

かせて、一寸せともの話を

書かして頂きます。素人の文

章ですから、お読み難い點、

あるやも知れませんが何卒治

容敬願ひます。

陶磁器は一般に潮戸物を通じて

るほど、産地として有名なのは

尾張の潮戸附近です。此處

は皆といつてもよいほど、加

藤といふ名前がありますので

その店の屋号を呼ぶならし

になつてをります。ついでな

がら説明を加へますと、私の

店の「山中」といふのも即ち

祖父が尾張藩の士族、中根家

から阿藤家へ養子に來て、大

阪へ分家して生れた屋號です

何故、この地方の潮戸物屋

に加藤が多いかと申しますと

千八百八十三年、後堀河天皇

の時代に加藤藤四郎と謂ふ人

が支那へ渡つて陶法を學び、

尾張戸へ窯を築いたのが始

りで、二十七代、藤四郎泰岱

が明治十年歿してをりますか

ら、實に長い間その系統をつ

いで陶磁器を造つてをつたこ

とにになります。何れも尾張藩

の保護によつて成長したので

あります。

猶、此地方の外にも日本全

国に多くの有名な産地があり

ますがこれは後で述べます。

一、古代の陶器

我田引水はこの位でやめま

すと、土器、陶器、石器、

磁器に分れます。質の堅さに

よつて分れた名稱で一般に陶

器といつて、この全部を意味

する場合もあります。

石器、土器、陶器はその歴

史もつとも古く、日本では畏

怖

茶わんや生

トでハラガが發明され、これを

陶器の釉薬として用ひ、コバ

ルト、青海色、緑、土耳古石

色等に覆はれた日用器具は美

しく、その釉薬は吸水性を生

じることで、如何ば

かり彼等の生活を便利にさせ

たことでせう。

講ふ學者もある位であります

然し、支那には古くからレ

キ形土器と、鼎形土器があり

東洋文化の古さを誇り、彩文

で建築した粘土で、太陽の

新羅征伐の時です。

世界における歴史は紀元前

三韓から土器の製法が渡來し

てをります。即ち神功皇后の

代を記す

時代に始つたのです。

仲良の新羅征伐の時です。

世界における歴史は紀元前

三韓から土器の製法が渡來し

てをります。即ち神功皇后の

代を記す

時代に始つたのです。

仲良の新羅征伐の時です。